

京都市文化観光資源保護財団

NO. **71**

1996. 6. 10

もくじ

— 寄稿 —

「里山の保全と利用」

京都芸術短期大学名誉教授・当財団史跡管理専門委員

武居 二郎 P 2

— 保護財団の活動 —

P 4

# 会 報





## 里山の 保全と利用

武居 二郎

里山というのは人の暮らしに関わって身近に存在してきた山林のことを言い、京都市の三方を取巻く東山、北山、西山の三山は古い歴史をひそめる里山である。平安遷都のための調査団が報告書のなかに、山河襟帯と言って首都としての条件を備えているとしたことから里山の歴史は始まる。

夏目漱石の書いた『虞美人草』の冒頭に二人の青年が洛北八瀬から比叡山を登る情景が登場するが、彼等が萱原を登って大汗をかいているところへ、大原女が軽々と拍子を取りながら下ってくるのに出会う。彼等が登っているのは萱原であって森林ではなかった。洛北一帯の農家の屋根を葺くのに必要な萱は莫大な量だったのであろう。一乗寺から北白川にかけての山裾も殆どが萱山であった。東山一帯が樹木の緑に覆われるのは昭和に入ってからである。

里山にはクヌギ、アベマキ、コナラ、クリなどの落葉広葉樹が似合う。薪炭材として大いに利用され、大きなゲンコツ状の萌芽更新林は人工造林のスギ、ヒノキよりも人臭いものであり、そこにはカブトムシやクワガタがひそんでもいて、子供にとって恰好の獵場であった。

人の暮らしに関わってと言ったが、もう一步奥に進むと北山には床柱といった付加価値の高い木材を生産し、またハシゴ、キャッツなどの木工品も提供する都市近郊型林業も成立していた。

モミジの名所も数多く、また大文字山のように市民の信仰と関わりをもつ山もあり、人間とのさまざまな関わりが京都の味わいを演出して来たのである。

明治時代から昭和の初期にかけて、東山南禅寺かいわいに数多くの別荘が造られ、庭師植治によって美しい庭が営まれたが、その殆どが東山を借景にしていた。京都を守護する役割を評価された周辺山地である里山が、今度は京都の町や文化財を引き立てるといふ晴れがましいことになった。『山紫水明』の言葉にもうかがわれるが、現在の京都三山はまさに自然を活かした景観保全の立役者になっている。それは借景と呼ばれるが、その景色が無ければ庭の景色が成立たないほど重要な意味をもつものである。ところが近年この借景に異変がおこりはじめた。

その一つが植生遷移である。萱山などの裸地に木が生えるときに、真っ先に生えるのがアカマツだと言われる。アカマツは貧栄養に強く、東山一帯にアカマツが優先樹種として栄えた時代もあった。太平洋戦争が終わって市民の生活様式が大きく変化し、燃料を得るために山に入って掻き荒らす人も居なくなったので、林地に落葉落枝が溜まって富栄養化が始まり、あれよあれよという間にシイ、カシ類が優勢になってアカマツが衰退した。だいたいこのあたりの極盛相はシイ、カシなのである。僅か50年の間のことなのに庭のアカマツと借景のシイ、カシ林とが景観的につながらなくなってしまったのである。借景が遠方にある庭では目立たないが、借景を指呼の間に望む庭では、余りにも歴然とした変りように驚かされる。

それよりさらに深刻な問題はマツクイムシの

被害によるアカマツの枯死である。庭によっては借景の上部が白く見えるほど山の稜線に枯死木が並んでいる。借景は一般に庭園所有者と無縁な人の山林だから、対策の立てようがない。幸いこのあたりには国有林がかなりあって、景観保全を最優先する経営方針を貫いているからまだ救いがあるが、そうでないときはまず手の打ちようがない。この状況は里山が庭園の景観と関わり合った問題というだけでなく、京都市全体の景観に重大な影響を及ぼす一例であり、アカマツの枯死は京都市周辺すべての問題である。

さて里山と人との関わりがさまざまであることはご理解頂けたと思うが、最近大都市周辺では里山を開発して公園的利用に供してはどうかというアイデアが起こりはじめている。戦前の里山利用は農用林のように、専門的、伝統的知識の持主の人力によって開発されていたから、乱開発ということにはならなかった。ところが今度はちがう。フォレスト レクリエーションとか称して都市の住民に里山を解放しようというのである。自然を楽しむのに必要なわきまの無い都会人を、彼等の都合の良ように森林に入れたらどうなるか、その悪しき前例には事欠かないであろう。里山の乱開発が起こらない保証もない。道のない山地にオートバイやRV車で無理やり乗込むことをスポーツと称するやからが忽ち目をつけるだろう。

そのような状況にどう対応したらよいだろうか。まずは現行の法規制を厳格に守ることである。都市計画法上の諸法令、風致地区、美観地区、歴史的風土保存地区、森林法などの法規制を厳密に守ることによって、大抵の開発行為は

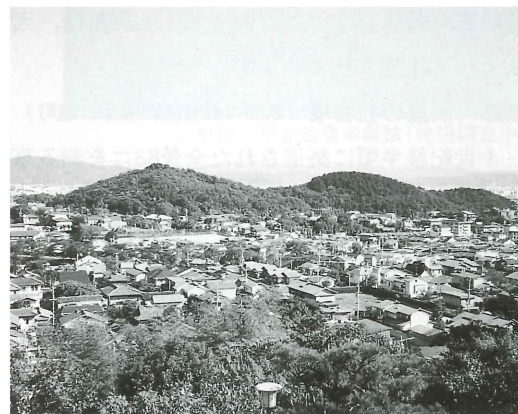
防げるはずである。

第二には子供を含む市民の啓発を強く行なうことである。かつて京都市の風致条例はその厳しい運用で名をはせたものであり、京都市民も積極的に協力した。いまの三山の姿もその成果といってよい。そのための風致の担当者の苦労は大変なものだったと聞いている。子供に自然との関わり方を現場で丁寧に教えるボランティア組織が欲しい。

第三にマツクイムシによって荒らされた山林をどう修復するかであるが、焦って庭の景観をもとに戻すためにアカマツを植えないことである。マツノザイセンチュウを媒介するマツノマダラカミキリがどこに潜伏しているかわからない。それよりも極盛相である常緑広葉樹の繁茂に任せて様子を見るか、ヒノキを植栽したほうがよいのではないか。お金を無駄遣いしないためにも慌てないほうがよい。

里山の自然は他の大自然と同じく極めて脆弱である。京都市民の皆様にそのことを充分にご理解頂いて、里山を大切に育てながら楽しんで頂く方策を立てたいものである。

(京都芸術短期大学名誉教授・当財団史跡管理専門委員)



西から見た里山（雙ヶ丘）の山並

## 京都の貴重な史跡を守るために

京都には、建造物や美術工芸品以外にも文化財として貴重な史跡・名勝・天然記念物が数多く残されており、これらは京都の歴史や文化、自然環境を理解するうえで欠くことのできないものといわれています。本年度より文化観光資源の管理事業の一環として、新たに当財団が保護管理を行うことになりました14カ所の史跡・名勝・天然記念物をご紹介します。

### 名勝 <sup>ならびが おか</sup> 雙ヶ岡（京都市右京区御室双岡町）

古墳時代後期の小規模な古墳が群をなして残されており、丘内には二群20余の円墳が確認されています。特に、一の丘山頂の1号墳は、直径約44m、高さ約8mを測り、主体部は横穴式石室でその規模から首長級の古墳といわれています。又、鎌倉時代に吉田兼好が「徒然草」を執筆した土地としても知られています。

昭和16年に名勝に指定され、その後環境整備が全域にわたり行われ、現在、名勝公園として親しまれています。

### 天然記念物 <sup>みぞろがいけ</sup> 深泥池生物群集（京都市北区上賀茂深泥池町）

深泥池は、周囲1.5km、面積9haで温暖な大都市には極めて珍しく亜寒帯や高山にのみみられるミズゴケ湿原、浮島があります。又、氷期以来の動植物が今も生き続けており、多くの水生植物、昆虫、魚類、野鳥等が生息しています。

現在、動物を含めたこの池の生物群集は、天然記念物として保護されています。

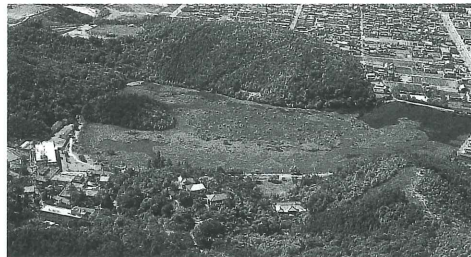
### 史跡 <sup>てんのう もり</sup> 天皇の杜古墳（京都市西京区御陵塚ノ越町）

4世紀後半頃に築造された全長83mを測る京都市内最大級の数少ない前方後円墳で、被葬者はこの時期に桂川右岸地域を統括した有力豪族と推定されており、地元では、古くから「文徳天皇の御陵」といわれ、親しまれています。

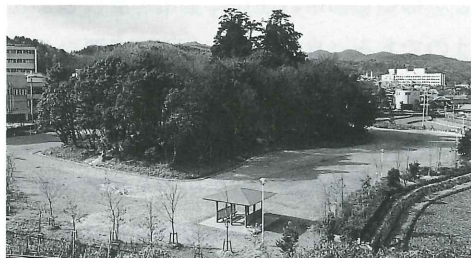
埋蔵文化財の発掘調査により墳丘部斜面には葺石が、またテラスには埴輪列がすべてに及んでいることが明



名勝 雙ヶ岡



天然記念物 深泥池生物群集



史跡 天皇の杜古墳



京都市登録史跡 福西古墳 7号墳及び10号墳

らかになりました。保存整備が行われ現在史跡公園として親しまれています。

### 京都市登録史跡 <sup>ふくにし</sup> 福西古墳 7号墳及び10号墳

（京都市西京区大枝北福西町）

京都市西京区の洛西ニュータウンの造成に際して、発掘された古墳群で、古墳の主体部が縄文時代の包含層を切って造られているところに特徴があり、7号墳、10号墳が京都市登録文化財として、保存されています。

### 史跡 <sup>へびづか</sup> 蛇塚古墳（京都市太秦面影町）

6世紀末頃に築造され全長75m程の前方後円墳で、当時太秦一帯を治めていた秦氏の墳墓と推測され、現在は横穴式石室部分が残されています。

### 史跡 <sup>かたぎはらはいし</sup> 榎原廃寺跡（京都市西京区榎原内垣外町）

7世紀中頃に造営された寺院跡で、発掘調査により一辺6mの瓦積基壇の八角塔跡や中門などの伽藍配置が明らかになりました。

### 史跡 <sup>へいあんきゆうだいいり ないかくかいろう</sup> 平安宮内裏内郭回廊跡

（京都市上京区下立売通千本東入る田中町）

平安宮の内裏を囲む築地回廊跡の一部で、発掘調査により平安時代後期の基壇跡が検出され平安宮の貴重な遺構として保存されています。

### 史跡 <sup>ぶらくでん</sup> 平安宮豊楽殿跡（京都市中京区聚楽廻西町）

天皇の饗宴を行うために延暦18年（799）に平安宮内に造営されたもので、発掘調査により基壇跡や緑釉の鴟尾なども発見されました。

### 史跡 <sup>さいじ</sup> 西寺跡（京都市南区唐橋西寺町ほか）

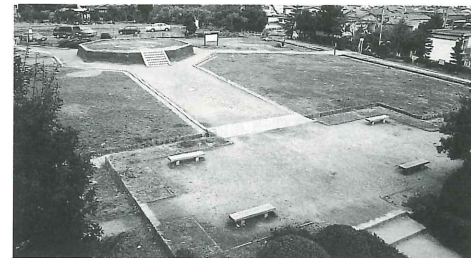
延暦15年（796）頃に東寺とともに造営された官寺で、平安京を復元する基準となる寺院跡として貴重な遺構であり、現在講堂跡の土壇が残されています。

### 史跡 <sup>くるすの がようあと</sup> 栗栖野瓦窯跡（京都市左京区岩倉幡枝町）

平安京造営に際し大内裏の殿舎や著名な寺院の瓦を製造していた窯跡で40基以上の窯跡群があり平安時代前期の緑釉瓦や「栗」の銘をもつ瓦が出土しています。



史跡 蛇塚古墳



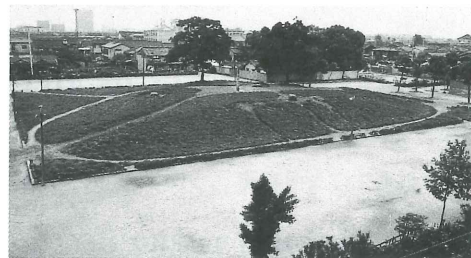
史跡 榎原廃寺跡



史跡 平安宮内裏内郭回廊跡



史跡 平安宮豊楽殿跡(発掘調査中)



史跡 西寺跡

# 史跡 鳥羽殿跡<sup>とばどのあと</sup>（京都市伏見区中島御所ノ内町ほか）

11世紀末に白河天皇の退位後の後院として造営された離宮で、離宮内には南殿・北殿などの建物と広大な庭園が造られ、現在南殿跡などの遺構が保存されています。

## 史跡 栢杜遺跡<sup>かやのもり</sup>（京都市伏見区醍醐栢森町）

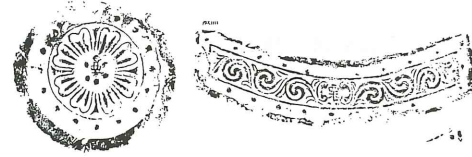
平安時代後期から鎌倉時代に造営された醍醐寺の子院で、発掘調査により八角や方形の堂跡、庭園跡などが明らかになりました。

## 史跡 御土居<sup>おどい</sup>（京都市北区平野鳥居前町ほか）

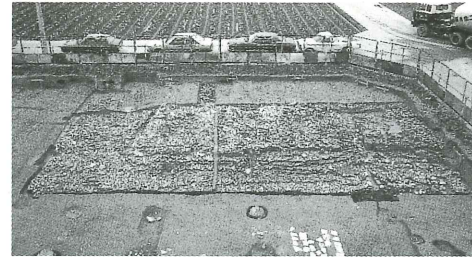
豊臣秀吉が、京都の都市改造の一環として外敵の来襲と川の氾濫を守るため築いた土塁で、その延長22.5kmに及び、土塁の内側を洛中、外側を洛外と呼び、要所には七口といわれる出入口が設けられていました。現在、9カ所が史跡として保存されています。

## 史跡 方広寺石星及び石塔<sup>ほうこうじ</sup>（京都市東山区茶屋町）

方広寺は豊臣秀吉が天正14年（1586）に造営した大佛で、現在はその東側外回りに巨大な石星が残されています。門前には文禄・慶長の役にまつわる耳塚（写真）があり又、豊国神社境内には馬塚があります。



史跡 栗栖野瓦窯跡の「栗」銘の出土瓦（拓本）



史跡 鳥羽殿跡（発掘調査中）



史跡 栢杜遺跡（発掘調査中）



史跡 御土居



史跡 方広寺石星及び石塔（耳塚）

（一部掲載写真：京都市埋蔵文化財研究所提供）

## 平成8年度 事業計画紹介

厳しい経済環境のなか、低金利が続き公益法人の運営がますます厳しくなり、事業活動の縮小が余儀なくされております。当財団におきましても保護基金からの運用収入が激減し、積立金の取り崩し等による予算措置を講じ、例年どおりの活動をおこなうとともに、新たに、京都市より史跡管理業務を受託し、史跡の保存活用にも積極的に取り組んでいくことになりました。

### I. 文化観光資源保護事業

〔助成〕 文化観光資源（建造物・美術工芸品・庭園等）の保存修理・防災施設整備等の保護事業・四だ行事・伝統行事・芸能の保存執行に対する助成

〔管理〕 京都市嵯峨鳥居本「町並み保存館」の管理受託及び運営、京都市管理の史跡等の管理業務の受託及び普及啓発

〔調査〕 文化観光資源に関する調査研究事業、文化財保護行政機関等との協議会の開催及び普及啓発事業の実施

### II. 文化観光資源保護思想の啓蒙普及事業

〔発行〕 会報・平成9年版文化財カレンダー等の発行、「近代京都の名建築」等調査報告書の配布、「京都市文化財ボックス」の

### 受託販売

〔実施〕 「文遊回廊」—ヒストリカル・トレイル—事業・第7回京の歳時記展の開催・第27回京の郷土芸能まつりの開催・京の三大祭〈葵祭・祇園祭・時代祭〉の観覧・修学院離宮特別参観・伝統行事芸能功労者表彰等

文化観光資源保護関係団体等がおこなう各種事業の後援、報道機関による啓蒙活動の積極的推進

### III. 募金活動

〔呼びかけ〕 現会員に対する追加募金・財団がおこなう啓蒙普及事業を通じての新規法人個人募金の呼びかけ、信託銀行がおこなう社会貢献事業コミュニティラストへの協力

## ※※※※京都市文化財ボックス第11集「京都 近世の肖像画—市内肖像画調査報告書—」※※※※

近世の京都市内肖像画調査をもとに、主に京都で活躍、あるいは、生活の舞台とした武士・天皇・公家・僧侶・婦人・町人などの人物を描いた作例を取り上げた京都市文化財ボックス第11集「京都近世の肖像画—市内肖像画調査報告書—」（A4判、72ページ）が京都市より発行されました。購入ご希望の方は、1,300円（送料310円必要）で頒布しておりますので、当財団事務局までお申し込み下さい。

## ※※※※「保護財団のしおり」配布※※※※

当財団の事業活動などを詳しく紹介していますカラーパンフレットを作成し、配布いたしております。会員の皆様方のお知り合いの方で入会を希望される方がおられましたらご送付いたしますので、事務所までご連絡下さい。

申込先（郵便、電話、FAXでお申し込み下さい。）〒606 京都市左京区岡崎最勝寺町京都都会館内  
（財）京都市文化観光資源保護財団 TEL 075-752-0235・FAX 075-752-0236

[illegible]

## 平成7年度 文化観光資源助成事業

平成7年度助成申請のありました四大行事の保存執行をはじめ文化財所有者、管理者等のおこなう文化観光資源の建造物、美術工芸品等の保存修理、伝統行事芸能の保存及び執行など保護事業81件に対し総額66,246千円の助成をおこないました。



木造釈迦如来座像

### よみがえった仏像

——西方寺木造釈迦如来座像——

西方寺（京都市北区西賀茂鎮守庵町）は、大文字五山送り火の「船形」で知られる浄土宗の寺院です。

木造釈迦如来座像は、当寺の本堂の客仏として安置されている等身大をこえる仏像で、桧材、寄木造り、漆箔仕上げで穏やかな面相や着衣に刻む浅い衣文などから平安時代末期の作と伝えられる仏像です。

長年にわたる風化、剝落、虫喰などによる損傷が著しいことから平成7年度当財団の助成により修理がおこなわれ、もとの美しい姿に復元されました。

## 四大行事保存執行 対象26件 44,216千円

葵祭行列執行・祇園祭山鉾修理及び執行・大文字五山送り火火床整備及び点火執行・時代祭行列執行

## 文化観光保護事業 対象13件 11,250千円

### ◇建造物の部 8件 5,000千円

法華寺 本堂修理工事・安楽寺 山門屋根葺替工事・豊国神社 本殿正面透塀屋根葺替工事・禅居庵 摩利支天堂屋根葺替工事・円徳院 本堂（客殿）半解体修理工事・本願寺山科別院 本堂修理工事・醍醐寺 鐘楼屋根葺替工事・月橋院 本堂屋根葺替工事

### ◇美術工芸品の部 2件 940千円

西方寺 木造釈迦如来座像修理（上記詳細）・建仁寺 開山堂方丈板絵修理

### ◇防災施設の部 1件 700千円

霊鑑寺 土蔵修理工事

### ◇その他施設整備の部 2件 4,610千円

(財)古都古文化保存協会 松毛虫駆除事業・(財)霊山顕彰会 霊山一帯及び招魂社周辺整備工事

## 伝統行事芸能の保存執行 対象42件 10,780千円

### ◇伝統行事 14件 5,040千円

嵯峨御松明・賀茂競馬・藤森駈馬・糺の森流鏑馬・鞍馬竹伐り会・松上げ（3件）・烏相撲・西之京端饗祭・北白川高盛御供・日野裸踊・鞍馬火祭・松尾祭桂川舟渡御

### ◇伝統芸能 28件 5,740千円

蹴鞠・雅楽（2件）・念仏狂言（4件）・六斎念仏（11件）・やすらい花（4件）・久多花笠踊・八瀬赦免地踊・松ヶ崎題目踊・修学院紅葉音頭・大原八朔踊・上棟祭

### ◆第6回 京の歳時記展

#### 「京都の神輿」を開催

去る2月3日～25日、京都市四条ギャラリー（下京区四条高倉）において開催し、今回は祭礼には欠かせない大切な祭具で、美術工芸品としても貴重な神輿をテーマに、神輿本体や資料・写真パネル等により京都市内に残されている由緒ある神輿を一堂に紹介しました。期間中1,788人の観賞者を迎えることが出来ました。

### ◆第26回 京の郷土芸能まつり

#### 「京の四季」祭まつりを開催

本事業は、京都の暮らしの中に息づき受け継がれる郷土芸能を紹介し保存育成に対する理解と協力を呼びかけることを目的に毎年おこなっているもので、去る3月9日に京都会館第2ホールで開催しました。

今回は、節分の行事としておこなわれている廬山寺追儺式鬼法楽の「鬼おどり」を初めて舞台上で演じていただくなど、京都の四季おりおりの代表的な伝統行事芸能を一堂に紹介しました。

### ◆京都市文化財特別公開事業

#### 「知恩院の歴史を訪ねて」を実施

貴重な文化財に親しんでいただくため京都市が実施しているもので、3月14日～16日の3日間1,350人の参加者のもと、知恩院の本堂（重要文化財）・大方丈（重要文化財）・方丈



神輿等を展示し、紹介する京の歳時記展



京の郷土芸能まつりで「鬼おどり」を演じる廬山寺追儺式鬼法楽



京都市文化財特別公開事業で知恩院の重要文化財を見学する参加者



第51回理事会評議員会

庭園（京都市指定名勝）と、非公開の小方丈（重要文化財）・三門（重要文化財）内部の特別公開をおこないました。

### ◆第51回理事会評議員会

#### 4月16日に開催

都ホテルにおいて第51回理事会評議員会を、48名（代理含む）の役員の方々の出席のもとに開催しました。

会議では、平成7年度事業報告並びに収支決算、平成8年度事業計画並びに収支予算、史跡管理専門委員会の設置等の議案が審議されいづれも原案どおり承認されました。

## 役員の変動

京都市の人事異動等に伴い新役員が、次のとおり選任されました。

なお、平成2年より常勤の専務理事として当財団の運営にご尽力をいただきました堀道夫氏が4月末日付で退任され、新しく今西祥博氏が就任されました。（敬称略）

### 新任役員

専務理事 溝 郁生（京都市文化市民局長）  
専務理事 今西祥博（前京都会館長）  
評議員 小林正明（京都市文教委防委員長）

### 退任役員

専務理事 山田富男（前京都市文化市民局長）  
専務理事 堀道夫  
評議員 川中増次郎（前京都市文教委防委員長）

◆平成7年度 伝統行事芸能功労者表彰式  
文化観光資源保護協力者感謝状贈呈式開催

去る4月16日開催の第51回理事会評議員会の席上におきまして、表彰式・感謝状贈呈式をおこない、各受賞者の方々に表彰状と記念品が北里京都市副市長（市長代理）と上山理事長からそれぞれ贈呈されました。

伝統行事・芸能の保存と活用功労のあった方々の功績をたたえる

伝統行事芸能功労者表彰受賞者9名（敬称略・順不同）

大薮萬司（藤森神社駈馬会）、藤田眞吾（北白川伝統文化保存会）、渡辺修三（一乗寺八大神社剣鉾保存会）、小林昭三（嵯峨祭奉賛会）、大西康義（蹴鞠保存会）、白井英次（平安雅楽会）、吉田俊男（吉祥院六斎保存会）、真継晃（梅津六斎保存会）、渡辺喜太郎（一乗寺郷土芸能保存会）

保護基金に多額のご寄付を寄せていただいた方々に贈る

文化観光資源保護協力者13件（敬称略・順不同）

〔団体の部〕株式会社一保堂茶舗、伸和建設株式会社、住友信託銀行株式会社京都支店、財団法人京都市駐車場公社

〔個人の部〕八田 茂、橘 宗義、岩佐氏昭、別所とみゑ、清水史郎、中村正三、伊砂利彦、平野和彦、柴田俊治



受賞者のみなさん

## 編集後記



本号では、本年度から新たにに取り組むことになりました史跡の保護管理にあたり、当財団専門委員の武居二郎京都芸術短期大学名誉教授からご寄稿をいただき、又管理を行います14カ所の史跡を紹介しました。

本年度から、これまでの活動に加え史跡の保存活用などもおこなって参りますので皆様の一層のご支援ご協力をお願い申し上げます。

——断ち切ろう

身近な差別を私から——

—皆様の募金で京都の文化遺産が守られています—

## 基金募金にご協力をお願いします

会員の皆様からお寄せいただいています寄付金は、保護基金として、文化財の保護や啓蒙普及事業等に充てられています。

長びく低金利により運用益が激減し、会員の皆様のより一層のご支援ご協力を必要としています。又、新規の協力者の呼び掛けにもご協力をお願い申し上げます。

会 報 No.71

1996. 6. 10

会 報 題 字／理事長 上山善紀

会 報 表 紙／天然記念物「深泥池と白いカキツバタ」

編集・発行／財団法人京都市文化観光資源保護財団  
京都市左京区岡崎最勝寺町京都会館内

〒606 TEL 075 (752) 0235

FAX 075 (752) 0236